

## 雜 錄

### ●蘭領の製鐵事業に就て

於馬來半島 サ ト ウ 生

既に識者間に於て注目され且つ多年の懸案と成つて居る蘭領セレベス島ボニー灣の近郊東岸に面するマリソ港内に地の利を得て居る同地鐵鑛業に就ては數年前より各國人の問題となつて居つて既に其地の踏査或は試堀等は完全に逐げられて茲に大規模の大製鐵所が實現される事を期待されて居つた、然るに近時研究の結果燃料の問題から特にコークスの原料に就て此計畫は當分中止の状態と成つた、加之近く東印度政府と民間資本家とに依つて一大シンジケート組織の製鐵所がポルネオ島南部に實現される事が發表されたから自然此地の鐵鑛業に就ての噂さは立消へと成つたのである一方シンジケート組織の會社は資本七千萬着の即時拂込で内貳千萬着は政府出資五千萬着は東印度在住の蘭人十二名の出資金であつて特に官公吏員及參議院議員は當會社の株主たる事を得ずとの規定がある、尙會社はポルネオ島南端部一デヒジョン地方を區切られての諸鑛産物の採掘權を七十五ヶ年間特許されて居るのと此期間中は前記セレベス島の鐵鑛採掘權は政府が保留して第三者に許可せぬ特權が附してある、諸鑛物とは言へ主たる目的は鐵鑛石と石炭とで有る、プラウラウット島スタゲンに在る現在政府經營の炭山は會社設立と同時に移讓される

條件で目下同炭山の石炭は一ヶ年五萬噸の契約で製造の原料に使用される事と成つて居る、然れ共同炭がコークス製造に適するや否やは問題であるが若し同炭がコークスに不適當の場合はスマトラ島のアツサム山石炭を使用する事と豫期されて居るが何れも現在は名技術家の研究中にある事は事實である、殊に會社が實現の爲に熔鑛爐設置を急ぎつゝあるが、斯業唯一の問題たるべき燃料コークスに就て未だ確乎たる方針があらざる事と、原料即ち良鐵鑛石に就ての調査が深く研究されざる事を思へば其眞意は何邊に有るかを疑はざるを得ず、茲に吾人の注意を要すべき事はポルネオ島鐵鑛山及スタゲンの炭山に就ては邦人が數年前東印度政府と交渉を重ねた事があつた、其際スタゲン炭山に近接するコマバル港の獨占權を該鑛山と共に要求した爲め遂に東印度政府にては港灣の使用權を特に一國に許可する事は他國の物議問題を惹起する原因であるからと言ふ意味に於て問題は邦人の不成功に歸したのであつたが、其の後鐵鑛問題は東印度政府の留意怠らざりしも今や官民合同のシンジケート組織を見るに至つた經路の順序である、然るに最近スマトラ島に松方氏系事業に依つて製鐵業云々の噂さ有るも蘭領鑛業法は多くの期待を吾人に與へるものに非らざる事は前記の如き判決例有るを研究すれば爾來蘭領は馬來半島(英領)と政狀を異にして早くより鑛業法發布されて居るので、殊に東印度政府との間に特種の法利的契約の存在するに於ては今日多大の資本を投じて製鐵業を目論見様とするは無謀の策も甚しき事かと思惟するのである今總ての點を綜合して見ても蘭領に鑛業を大規模に計畫する事は外交施設に關係の伴はざる限り是を輕々しく行ふべから

ざる事は明かである、而して前記のシンシケート會社が今更何故に急いで製鐵計畫を發表するに到つたのであるか、茲に蘭領政府の外交魂膽がある、即ち此製鐵事業は國內發展策から考慮して或一國の資本又は或一國に該事業を特許する事は國狀が之を許さず遂に領内資本家をして事業を設立せしめて兎に角其主權を確保し置き、後徐ろに外國の資本を招致せんとする所に彼等の外交的妙案が内在して居る、之は此事業設立者であり曾つて斯業に經驗を有する同政府代表委員エフ、デ、ワールデン氏が歐洲各地に於て有力なる資本家に事實を説明して居る事と、尙彼等委員は民議會に於て「廳ては外資を招致する必要は起るであらふ」と述べて居るに見ても事の成行きは雄辯に之を説明して居る、蓋し何れの國に於ても國內の繁榮と發展とを望む所は同じであるが、未だ燃料及びピックス製造等問題になつて居ると共に道路港灣の設備に尠からず費用を要する點を考うれば前述の如き資本を以つて果して豫定の成績を擧げ得るや否や更に對岸(印度)に於て年々擴張されつゝある所の製鐵事業の將來は彼等に取つて一層思慮せざるべからず、従つて此事業の成否は一九二五年開始と共に注目視されつゝ有る。

#### 蘭領製鐵會社よりの交渉架電這入る

昨年末即ち十二月二十四日附にて馬來半島東海岸に目下計畫中に有る鐵山邦人某の所へ右製鐵會社より直接或特種の交渉入電があつた。

#### ●復興と製鐵の前途

帝都復興材料として幾何の鐵材を要す可きかは復興が大體何箇年位を要す可きか並に都市建築の具體案が示されない今日に於ては勿論正確に之が所要數

量を豫想する事は出来ないが、大體に於て六、七十萬噸を要せらる可きものと假定して七箇年を要するものとせば年十萬噸見當の鐵材を要する譯である、而して現時我國に於ける一年の消費高は年百二、三十萬噸で、内地生産高は其四割餘に過ぎず、他の六割は外國よりの供給に仰いで居る、従つて我製鐵業は常に外品の壓迫に脅威を感じ、當業者は之が對策として屢次關稅の引上を要望し、政府も亦之が保護獎勵に努めつゝあるが生産費其他總ての點に於て有利なる外國品とは到底競争出來ず、戦後我製鐵業は終始苦境に沈淪しつゝある、偶々今回の大震災に依りて鐵の需要は事實に於て一時活況を呈したが其は唯亞鉛板、平板、生子板若くは丸釘等の一部の種類に止まり、而も之等需要もバラツク建築其他當用買の一巡と共に價格も下向き傾向となり茲金融逼迫旁々賣り急ぎを敢てする傾きもあつて近來一服の状態であり銑鐵の如きは在荷も震災前と殆ど變化なく格別の需要を喚起せらるゝに至らない、尤も震災地の復興には巨額の鐵材を要すべく従て之が需要を見越して從來窮地に沈淪して居た我製鐵界も稍生氣を盛り返した感無きに非ざるも一方震災火災と共に鐵材の輸入税は免除せられ、又政府に於ては復興材料として巨額の鐵材を海外より買付けたなどで今春よりは外品の輸入も相應の數量に上るであらうと見られて居る爲に折角蘇生の思ひであつた製鐵業も關稅全免に依る外品輸入の壓迫を見ねばならず、然も若し該免稅期間が延長せらるゝが如き事あらば關稅の保護に依りて辛ふじて窮狀を支持しつゝあつた製鐵業は全く破滅の外はない、此の事情に鑑み本會は之が陣情を政府當局に提出する所となつた譯である、併し本年四月以降は從來の如く

輸入關稅を復舊される筈だから其機に於て疲憊せる製鐵業の保護獎勵を計るに最も必要のこととせられ政府當局に於ても之に對しては相應考慮を拂つてゐるやうであるから尠くも鐵材に就は三月末日を以て舊稅率の復舊を見るものと思はるゝも、右し之が期間の延長を見るが如き事あらば關稅の保護に依つてさへ尙且外品の壓迫に苦しむ我製鐵業は全く死地に陥るの外はない、之を要するに震災地の復興事業に依りて我製鐵業が如何なる影響を受くるかは勿論今後本建築期に入り、鐵骨又は鐵筋コンクリートの建築物に對する需要の増加に待つ外なくそれと共に輸入關稅の如何は斯業の前途に多大な關係を有するものである、而して之れが將來の發展は復興事業に伴ふ鐵材需要増加の機會に於ける當業者の努力と當局の施設宜しきを得るに非ざれば、行詰れる現下の窮境を一轉好況に向はしむるは極めて至難の事であつて復興に依る斯業の好影響の如き未だ充分の期待を前途に繋ぐことは出来ない状態である。

### ●製鐵合同の急務

磯村豊太郎氏談

我邦の製鐵業は歐洲大戰の影響を受け、巨額の投資により非常の發達を見たが、戦後の打撃に依り漸次萎微不振の状態に逆轉して各製鐵會社は等しく苦境に彷徨してゐる。この悲運を救濟する唯一の方策は大合同の外に道はない。就中目今の急務とする所は官民の合同が先決問題であつて其他の關稅政策とか、獎勵金、或は外國品の對差等は其後の問題として講究すべきである。聞く所に依れば滿鐵は近く鞍山製鐵所を擴張改良し安價なる銑鐵の供給を圖る計畫を建てしめるさうであるが、滿鐵の如き國家的事業會社に於ては大震災後の復興

に當り、京濱地方の如き多額の鋼鐵建築材料を要することであるから銑鐵よりも是等の鋼材料を製造して安價に供給することが國家的に働くことであり又國家社會に對する任務であるものと考へる。是れ等の點に想到し來れば、我製鐵業を此の儘成行きに委すことは出来ない、基礎ある事業として今日の如き場合、徒らに復興鋼材を海外より輸入することを爲さず、自給自足の道を開かねばならぬが爲めには合同の速進は最も緊要のことであるが、而して合同速進の方法としては政府委員と民間有力者を集めた官民協議の下に之が解決を委ねべきである。

### ●製鐵合同促進

我國の製鐵業は歐洲戦争によつて技

能の進歩と生産能率の増加を見るに至つたが大正九年より急轉直下需要減少と印度タタ及びベンゴールを始め歐洲よりの安物輸入の爲め内地品は全く之に壓倒され生産能率は三分一に減じ大倉組の本溪湖は一時休業し、東洋製鐵は八幡製鐵所の委任經營となり、其他釜石、兼二浦、室蘭等何れも半期二三百萬圓の缺損を生じ經營頗る困難に陥つて居る、偶々昨年二月佛國のルール工場地帯占領に依つて獨逸の鐵材輸出杜絶したので一時小康を得たが、印度カラチの鐵材が銑鐵一噸五十圓内外にて輸入さるゝので製鐵所は殆ど窮境に迫つて來た、其結果昨年八月内地六大製鐵所の救濟問題の一方法として補助金又は低利資金融通に關する政府への陣情迄なしたが、震災と共に一噸挫を來して今日に至つて居るが、若し此儘に放任する時は折角今日迄發達して來た我國の製鐵事業は全く外國品のために制肘されて其跡を絶つに至ると云ふので何等かの方法によつて之が復活救濟をなすべく過般澁澤子爵

は製鐵業者の意響を受けて前田農相を訪問し對策を陳情し具體的方法迄も示す處があつた、右に就て澁澤子は曰く

政府にては八幡製鐵所に對しては新機械の購入や潤澤なる資金を供給して其生産増加と技術の修練に努めて居る、勿論之れは官營だから己むを得ない、然し我國の製鐵事業の發達を期せんとするには單に官營工場のみならず、殊に相當の資金と需要の途が講ぜらるゝならば遙かに八幡よりも經費少なくて優秀なる生産品を得る事が出来るから此際何とかして死地に陥つて居る民間製鐵事業を政府の力によつて復活させたい希望である、當局でも目下調査中であるから早晩復活の途が開かれると思はれる、夫れには或程度迄經費の節約無用の競争を避くるため合同して相當勢力を扶殖する事が急務だと信ずる。云々。

●**關稅問題に就て** 昨冬臨時議會に於て關稅問題に關し山本益助氏より製鐵所製鐵の價格等に就て質問ありたるに對し白仁製鐵所長官の答辯左の如し。

鐵材の價格は横濱神戸等にて陸上倉庫渡の價格及び内地ストックの状態を考慮し其時々事情によりて決定して居る、而して鐵材の如きは如何に見越輸入を企てんとしても明年三月までに大量の鐵材を輸入することは困難である、自分の見る處では本年末までに約十四五萬噸、明年三月末までに二三十萬噸の輸入に過ぎないと思ふから製鐵事業者が窮狀に陥るが如きことはいふと思ふ、若し明年三月以降まで本法が繼續するとすれば製鐵所の價格も引下を餘儀なくせらるゝことになる、萬一斯様な状態に立至るとす

れば其際は何んとか機宜の處置を講ずる必要が起ると思ふとて細詳なる説明を與へられた。

●**東北帝大金屬工學科新設** 東北帝大工學部では今回金屬工學科を新設し本年四月から開講することになつた。

同科は從來の冶金學即ち製煉の外に金屬加工及び合金に關する科目を加へたもので、學生は世界的に名を得た同大學所屬の金屬材料研究所が利用出来るので研究上非常な便利である、又教授講師には工科理科兩面の出身者で實驗と研究に造詣深い人が多くあるから卒業後製煉、加工の外研究や材料檢定等に從事するものには頗る便利であると同科某教授は語つて居る、尙ほ本年度收容學生は約二十名で定員未滿の際は高工卒業生其他から試験の上若干名の入學を許し大學院學生も收容すると。

●**漢冶借款交渉** 昨年來行惱中の漢冶萍煤鐵公司と八幡製鐵所との保證に依る正金銀行公債の五百萬兩借款につき、來朝中の同公司總司令夏偕復氏、服部、吉川兩顧問は去る十一日八幡製鐵所に白仁長官を訪ひ、明年度銑鐵及び鑽石取引高を取極め借款問題に及んだが、その結果は案外良好であつたので同公司一行は更に大藏省と正金銀行との間に交渉を進むるため同十二日上京した、尙明年の契約高は銑鐵十萬噸、鑽石三十五萬噸となる見込みである。

●**大島製鋼所建材製造計畫** 大島製鋼所は從來造船及鐵道材料を主として機械製作を爲してゐたが過般の震災に依り今後建築用鐵材の需要増加するに鑑み新にこれ等建築材(主として鐵筋)の製作を開始すべく講究中であつたが、去月二十四日重役會を開き協議の結果經費約百萬圓を投じて右新

計畫を決すると同時に従來の工場設備にも改善を加ふることになり、右資金を未拂込の徴収にまづべく取敢へず現在未拂込金一株十二圓の内一株五圓(總額六十萬圓)を新春早々徴収するに決した。

### ●製鐵所大型物増産計畫

八幡製鐵所第三大型工場では今回デヨイスト二十四吋の大型物を製作した、歐米各國では既に三十吋までの大型物を製造して居るが、製鐵所の二十四吋デヨイストは實に東洋一の大型物と言はれて居る、従來同所では最大十二吋を限度として製造して居たが、今後は注文あり次第これが製造に應ずる筈で十二三萬噸の能力を有して居る、諸大型物は大建築物の桁、梁等の材料に使用するもので現在では十二吋まで二吋置きに製造して居るが、將來二十四吋物の注文をも引受けることになつた、そしてチャンネル、アングルを二十四吋に擴大すると。

### ●製鐵所先物賣出發表

八幡製鐵所は丸棒、型物、板類等今年三月渡合計一萬四千噸を賣出す旨を發表したが、その賣出直段は未だ何等明示せず當業者から多大の注意を拂はれて居る、而して今日外國品を輸入するとせば丸棒並時物が横濱税込噸約百十圓見當なるに對し同製鐵所は前回の一噸百十二圓の直段を右輸入品と均衡を保つ程度に變更するか夫とも内地市場を安定せしむる目的の下に従來通り据置かか頗ぶる興味ある問題とされてゐる。

### ●本邦主要製鐵所銑鐵產額

八幡製鐵所及戶細作業場銑鐵產額

大正十二年十一月

噸 四〇、〇五三・九五〇

十二月

噸 三六、二〇三・三九〇

### ●亞鉛板の前途

亞鉛板も昨今は一圓三十五錢どころを唱へてゐるから、まづ安心だが、震災のあとの、亞鉛板の騒は大したものであつた。親戚知己に身を寄せた人も、シエルターがなければならぬ。取敢ず、焼け亞鉛の寄せ集めであつたが、これにも限りがあり、且焼け亞鉛では甚だ心細い。亞鉛板需要の叫びは悲痛のものであつた。京濱間の亞鉛のストツク約二千噸が焼けてしまつた。建て物その他に使用してゐたもので、焼けた分も一萬噸以上だとのこと。震災前は、寧ろ供給過多で標準物の平板三十番一圓十錢前後であつたものが、忽ち二圓となり、二圓三四十錢となり、二圓七八十錢となり、はては五圓以上といふ突飛なものも現れた。警視廳の目は光つた、公定相場一圓八十錢と決定、追ひ／＼大阪方面からも品物が入つて來て、この數量今日まで約五萬噸と註せらる。十一月頃から供給過多となつて、年末は金融關係もあり、一圓二十錢どころまでなつたが、これは需要者が漸落相場をながめて買控へた爲めもあり、越年後は反撥模様で、昨今は一圓三十五錢といふ次第。今月一杯位はこの勢ひを持続する見込みといふが、亞鉛板も輸入税免除品、其中原板が續々は入て來て、四月頃となれば品質が潤澤となる豫想である。亞鉛板は製品としては餘りは入つてこぬ。ブラック・シートと稱して鐵の薄板を英米兩國から輸入しそれに内地工場で亞鉛の鍍金をするもので、製造工場の重なるものは關東で東京亞鉛鍍金をはじめ五社、關西で大阪鐵板製造を始め三社ある。關東の各社工場は、震災のため高田鑛業の工場を除くの外皆焼けた。今では全部復舊したが、唯原料の原板が不足のため作業を休止してゐる。亞鉛板の需要は、これからも盛

んであらう。しかし、震火災直後とは異なり、追ひ／＼に木材のバラックがふえて行きつゝある、一方供給状態が右の如くであるから、今後とも亜鉛板の暴騰といふが如きことはあるまい。亜鉛板の標準物は平板三十番であるが、最も需要の多いのは生子板と稱して波形があり三六といつて三尺に六尺ある筈だが、實際は六尺に二尺二寸五分位しかない。屋根下があれば平板で葺くのが良いが、なければ生子板で葺く外はない。丸揚げと稱するのは、つまり生子板の大きなもので、六尺に二尺五寸である。終りに、亜鉛板に限らず亜鉛のわが國における需給状態をかゝげる。但亜鉛がわが國で製出せらるゝ様になつたのは大正四年輸出を見る様になつたのは翌五年からであるから、左者は夫以來の數字である。(單位千斤)

年	産額	輸入	計	輸出
四年	三五、二一九	二四、一一九	四五、三三八	—
五年	六四、九八九	九、六一九	七四、六〇八	三八、六九〇
六年	九一、一九七	一〇、七五七	一〇一、九五五	六一、三九〇
七年	六六、五二六	七、五三六	七四、〇六一	二八、三〇五
八年	三三、〇二七	三七、九〇六	七〇、九三三	九、四七二
九年	二六、二四一	一一、七八五	三九、〇二六	三七三
十年	一七、二八九	三五、九五二	五三、二四一	八七
十一年	—	六九、六七〇	—	一一二

五、六、七年頃に可なりの輸出があつたのは、例の歐米の輸出がとまつた結果であり夫以來亜鉛の輸出は微々云ふに足らぬ。前表中、産額と輸入との合計から輸出を差し引いた分が内地消費額である。

●正當價格公表

農商務省調査

農商務省が年初劈頭暴利取締勵行の方針を以て暴利の疑ひ

ある各種品目に就き精細に生産費諸掛を調査し正當なる標準價格を定めて警視廳を通じ全國の警察署に移牒したのであるが、右の内鐵類に關する主なる品目に就て生産費並に正當なる卸値小賣値等を摘記すれば左の通りである。(單位圓)

鐵 釜(一升炊一箇第一光)	生産費	〇、七五	問屋より小	〇、八三	小賣相場	〇、九九
鐵 錫(珞着せ八合)	生産費	〇、三三	問屋より小	〇、四三	小賣相場	〇、五〇
鐵 鋼(珞地名古屋)	生産費	〇、四三	問屋より小	〇、五三	小賣相場	〇、六〇
鐵 亞鉛鍍鐵(三十番三六板)	生産費	一、三〇	問屋より小	一、三三	小賣相場	一、三九
鐵 板(一枚産地大阪)	生産費	一、三〇	問屋より小	一、三三	小賣相場	一、三九
鐵 釘(電鍍せざる二吋者、一樽、産地大阪)	生産費	一、〇〇	問屋より小	一、〇三	小賣相場	一、〇九
鐵 葉(並物百斤當)	生産費	一、四〇	問屋より小	一、四三	小賣相場	一、四九
鐵 線(二十一番十三貫五、百匁一束産地大阪)	生産費	一、七〇	問屋より小	一、七三	小賣相場	一、七九
鐵 線(百匁一束産地大阪)	生産費	一、七〇	問屋より小	一、七三	小賣相場	一、七九
バケツ(鐵板一五吋物)	生産費	五、九〇	問屋より小	六、〇〇	小賣相場	六、一〇
黒薄鐵板(三十番三六物一枚全部輸入品)	生産費	一、〇〇	問屋より小	一、〇三	小賣相場	一、〇九

註 aは輸入沖着價格 bは輸入者よ 問屋へ卸値

尙右表に就て係官の語る所に依れば右は農商務省が責任を以て精査せる標準價格であるから右の價格以上を以つて取引せらるゝものは全部暴利と見て差支ない、殊に前記の標準價格は震災直後のものであるから漸次復興に連れて益下落すべき筈であるのみならず當局は大事を執つて前記の標準價格其者も尙多少高く見積つてあるから右標準價格より安くとも高い筈はない譯である、尙備考として生産地附近は運賃荷造り費等を要しない關係上更に幾分の減額あるべき筈である。

●英國鐵鋼狀況

(大正十二年十月十九日在倫 敦帝國總領事堀義貴報告)

鐵鋼生産及輸出高 九月中銑鐵生産高五五八、六〇〇噸に





鐵鋼板(厚さ八分の一吋以上のもの) 三〇、五三三 三二、三五五 七、三三六 八、〇三六 六、七〇〇 六三、七四三

同(同以下のもの) 六八七四 二七五、九三〇 四〇、九三六 六五、六六七 三三、〇〇一 二、一九三、五三三

亞鉛引鐵鋼板 五、〇三六 一八一、三三九 六、一七六 一五、八六六 一、六六六 三三、二四九

鐵 力 七、一三三 二七六、九二九 一三、〇三三 三〇、七三三 二、八九五 四六、三三三

鍊 鐵 九九一 八二、二二六 九二 五、〇七二 一、五八 五、三〇九

●英國鐵材輸出高 英國商務院の發表によれば、昨年

十一月中に英國が日本へ輸出した鐵類左の如し。(單位噸)

鐵 棒 一〇〇〇 鐵鋼板 二四、〇〇〇

鋼 棒 二、四〇〇 鐵 力 七、三〇〇

亞鉛引薄鐵板八、五〇〇

●英國商況 (一月十八日 在倫敦松山商務官來電)

昨年十二月中輸入一億九百二十萬磅、輸出六千四百十萬磅、再輸出千四十萬磅、十一月に比し輸入七百五十萬磅増輸出百五十萬磅減輸出變りなし輸出減退はクリスマス及年末休暇に原因し貿易狀況大體順調。

金融市場年末決算にて幾分引締りしも越年後は公債社債類利子拂と年末資金回收等の爲緩漫短期物の需要増加せるも大勢順調株式界は政界不安と對米爲替暴落にて閑散市況一般に弱含新規放資殆ど皆無。

爲替は勞働政府の出現豫想弗投資増加等にて對米益々軟調、法は引續き低落金利五厘方引上げしも反應なし、年末以來休暇氣分を脱せずと雖一般經濟界は昨年下半年來漸次好調を辿りつつありたるも内政不安定の爲一頓挫を來し大體沈靜他方目下米國並に聯合國の努力せる對獨問題は必ず或活路を見出すべく内政も勞働黨政府は短期間なるべしとの豫想にて多少樂觀を以て新年を迎ふ。

鐵道從業者賃銀低率に於ける罷業運動急迫、石炭坑夫も現在協定率の滿期と共に之が改訂を希望し其態度強固にて一般工業界を脅す。

銑鐵は内地需要相當あるも燃料割高にて工場採算難、大陸の爲内地諸鐵道會社事業擴張等にて建設材料相當多忙、輸出濠洲南阿向多少あるも歐大陸向不味。

鐵力は需要家先物買付濟、工場も亦相當先物賣越にて目下商談一服の狀況、向後原料錫に激變なくば市價持合ふべく、輸出は東洋方面小口弗々、歐大陸は爲替暴落にて買氣付かず。亞鉛板取引閑散なるも高值唱、輸出は南阿濠洲方面獨活氣あるも、印度不味なり、薄物の引合皆無、日本より註文取消の申込多く工場中ブラツクシートと交換を承諾せるものあり、日本向六十枚物三十磅見當。ブラツクシート取引閑散なるも相場手堅く更に日本よりの註方を豫期す、百七封度物二十一磅五志以上。

石炭は家庭用註文激増相場噸當り平均二志昂騰、工場用は活氣なく輸出も亦閑散市價安含み。

海運界、新年の海運界は豫期の如く漸次好況南米歐洲穀物積取優勢、豫て活躍せる北米太平洋岸東洋向木材穀類搬出引續き需要多く北米大西洋岸歐洲を除き運賃傭船料上向、造船界は勞働爭議解決と一般海運界好況にて新規註文弗々。

●鋼材前途 這般の大震火災は内地鋼材事業に相當の波瀾を起さしめ當時應急的需要の喚起せらるゝと共に就中、亞鉛引薄鐵板、釘等の需要は激増し鋼材市價は一時著しき暴騰を告げたが、バラツク其他急需要品の一巡後は一般的建築用

を告げたが、バラツク其他急需要品の一巡後は一般的建築用



鐵材の需要は一向喚起せられず、昨年末は金融難旁々相場は却て下押し傾向裡に越年した。斯く鐵材が豫想に反して需要の喚起せられざるは其實需が復興本計畫の確立を見ざる爲め一般に建築を見合せつゝあると、更に本年二三月頃迄に輸入さるゝ鋼鐵材料は約六萬噸に達する見込にて、又亞鉛引鐵板用原板の輸入高は十五萬噸を超過す可く當分需要に對する供給夥多の傾向を示すであらうし、従つて相場の安定を得て實需の喚起を見るは五六月以降と思はねばならない、其頃に至れば海外よりの輸入も減少し復興用の外永らく先行を觀望し居たる地方筋の實需も増加す可く夏期より秋冷の候になつて相當好景氣を現出するであらうとは當業者の觀測する所である。然し今後復興事業が漸次進捗せらるゝにせよ資金の關係もあり假令其所要數量は相應大なりとするも實際使用する長期の日月に割當つれば一箇月の使用量としては莫大の數量には上らない、従て其受くる好影響としても其程度は極めて輕微なもので之に依つて非常の大相場の實現を夢想するが如きは常に外品の壓迫に脅威せられつゝある斯業の望み得られざる所である、尤も鐵材に就ては内地工業保護の趣旨より近く三月末を以て輸入税の復舊を見るべき模様であり之に依りて幾分の苦痛を輕減し得べきも未だ大勢は依然立直りを期待し難いかと觀ぜらる。

## ●鐵 鋼 市 況

銑 鐵

印度銑鐵の輸入は最近爲替關係の不利及運賃高の爲め新規引合は無論既約定品の輸入さへも圓滑に行かなくなつた、併し我國及大連市場における銑鐵在庫高は生産者筋に七萬九百

九十九噸、問屋筋に二萬五千六百六十六噸、消費筋に八萬五千八百五十四噸これに輸送中のものを加ふれば約十九萬噸見當を算し震災前に比し約二萬八千三百噸の増加を示せる状態なるを以て現在の需給關係より見ると寧ろ供給過剩の状態である、従つて全國的には震災前に比し市況は幾分軟弱であるが、京濱間の舢船賃が震災前一噸一圓七八十錢見當なりしもの昨今四圓五十錢見當に暴騰したから東京市中の相場としては輪西一號六十六圓、兼二浦一號六十五圓、釜石一號六十八圓、本溪湖及びベンガル物六十三圓、タタ六十四圓見當と底堅く保つて居る。

## 鋼 材

鋼材類は震災に因る應急的手段としての需要は一段落を告げ未だ永久的大規模の工事は起るに至らず、又一般需要者は先安を見越して思惑的買入を手控へて居るのでまよまつた取引がない、従つて一般に漸落步調を續けて居る、殊に復興院の注文せる平板三千五百噸、生子板三千五百噸、丸釘一吋乃至五吋物約五萬樽見當のものが二、三月頃迄に輸入される筈になつて居るから左なきだに供給過剩の觀を呈せる該品は先行一層の低落を氣遣ふて暴落を示すに至つた、即ち棒鐵は五分乃至一寸物十錢安の十貫目四圓三十錢、鐵板十三枚物十錢安の一枚に付一圓、丸釘一寸六分乃至三寸二分物一圓三十錢乃至一圓五十錢安の一樽十三圓、三寸六分物二圓安の十二圓、四寸物二圓安の十二圓五十錢、五寸二圓安の十二圓五十錢を唱へ又亞鉛鍍金板上等一枚に付十五錢安の一圓四十五錢、生子板六尺物十五錢安の一圓三十錢見當を唱ふるに至つた、併し復興院の購入直段は横濱揚にて平板二十九番約一圓五十

一錢、二十八番約一圓五十四錢、生子板二十八番約一圓三十九錢、同三十番約一圓二十三錢見當、薄板十二枚入一枚に付九十錢、同十枚入一圓、丸釘一樽約十二圓十錢見當であるから内地市場相場もそれ以上差したる下押を見るが如き事なく或はこの邊を底として此後幾分の反撥を現すかも知れないと見る向もある。

### ●大阪聯合講演會狀況

齋藤 大吉氏通信

去る一月十九日(土曜日)午後二時半より大阪に於て開催せる機械學會との聯合講演會の狀況左の如し。

先づ長谷川博士開會の辭を述べ最初の三講演者に對しては同氏に司會者を囑す。

此日聽衆四五百名に上り滿場立錫の餘地なく椅子なくして立ちたる人數十人あり、案外の盛會にて大成功を奏せり。

第一席 杉村伊兵衛氏講演

Casting stress に就ては unwin 式、Machinery 式の設計に於て各八吋外徑の belt pulleys を鑄造して其外徑を精密に測定し、次に其 arm の一本を切りて stress を弛めて其變形する程度を測定し、或は之に壓力を加へて原形に復する爲めに要する load を測りて之を arm の斷面の一平方吋に對する load に換算して之を以て Casting stress を現はすの數字とし unwin 式のもの Machinery 式のものに比して此 stress が約二倍大なる事を述べ、Machine design に於て此 Casting stress を可成減ずるには其 design に多大の注意を拂ふの要を説き、次で Mould の乾濕が此 stress に及ぼす影響 Seasoning の影響 annealing の影響等に就き一時間に亘りて講演せり。

此講演に對し長崎造船所の佐々木氏より質問あり、其 an-

nealing temp. 組織の變化、硬度、抗張力等には杉村氏の意見に疑を挿みたり、之には小生も同感なりき、時間少かりし爲め十分質問をなさしむるを得ず。

第二席 林狷之助氏講演

熔融金屬の流動性に就ては先年製鐵所研究會記事に發表せし以後實驗せし事に付て講演せり、之は第一鉛及アルミニウム兩金屬の fluidity が溫度の上昇と共に急に増加するも其熔融點以上約一百度にて max. に達し夫れ以後は増加極めて少き事實を擧げ、第二燐が鑄鐵の fluidity を増す有様を系統的に研究したるものなり、第三 Bronze 中錫の量が其 fluidity に及ぼす影響、第四亞鉛が錫青銅の fluidity に及ぼす影響等を述べたり之に對しても神戸三菱造船所の百々氏其他より二三の質問ありたり。(講演時間約五十分)

第三席 野村靜氏講演

鋼鑄物には Moulding Sand の成分、binding clay の成分等を擧げ又其砂粒の細粗及形狀の利害に付て述べ夫れより鑄物の形狀、肉厚の變化等に由り Crack 及 Shrinkage の成因及出來位置等を數多の圖解に由りて説明し、次に之を防ぐ方法として Rib をつけること、冷し金をあてること、鑄込みをなすこと等を述べ夫れでも之等の缺點を除き得ざる時は設計の變更を迫るの外なしと述べたり。(講演時間約一時二十分)之に對し二三の質問ありしも既に六時となりしを以て休憩として夕食を採りたり。

夕食後七時二十分頃より石川博士の講演を始む。

齋藤大吉博士司會者となる。

第四席 石川登喜治氏講演

鑄鐵鑄物の鑄損じの原因と其豫防法、之は大なる表に鑄損じの種類、其原因及豫防法を極分り易く項を分ちて表示し之に付て委しく説明し又圖解に由りて湯口、空氣拔、湯廻はしの有様を説明し又廣支廠に於て採用せる二種の代表的鑄鐵の成分及其物理的性質を表示し、近來喧しき三%内外の炭素、○.九%位の化合炭素を有する pearlitic cast Iron に付て約二時間に亘りて縷々述べ、至極面白くて多大の感興を興へたり、後四五の質問あり十時近くに至り漸く之を終れり。終りて齋藤司會者より前記四名の講演者に對して鐵鋼協會及機械學會を代表して謝詞を述べ又此講演會開催に付多大の好意を示されたる大阪鐵工業組合に對して謝意を述べたり。次に大阪鐵工業組合を代表し高倉作太郎氏より此講演會に對して謝辭を述べられたり。

夜間も晝間同様の大入滿員にて非常の盛會なりき。要するに此講演會は阪神地方機械製作業者の時代の要求に最も適合したる企にて此の如き成功を收めたる事と信ず、之に由りて鑄物業者の研究的態度を鼓舞するの一助ともなるべし、是非此後とも年に一度位は此種の講演會の開催を望む。

◎米國の對日鐵類輸出高

米國商務省の發表に依れば昨年十二月中に日本へ輸出したる鐵類は左の如し。(單位ポンド)

亞鉛引薄鐵板	七、九一四、〇〇〇
ブラツクシート	七四、六九九、〇〇〇
鐵	一八、四〇六、〇〇〇

尙ほ昨年一月以來の同輸出の趨勢左の如し。(單位千ポンド)

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
亞鉛引薄鐵板	九三七	三六八	七四五	一一一九	一、四五三	六二四	六二四	五五七	八三三	二、三八〇	七、九一四	
ブラツクシート	一、九六四	二、三五一	三、八八六	八、五五四	一、二、五七四	七、五四四	五、三〇五	一、四二二	七、九七六	九、三三一	七四、六九九	
鐵	五、六八六	四、七三九	四、八二三	九、〇六四	九、七二二	四、一七三	二、七〇〇	四、二三七	五、一五四	九、二二三	一八、四〇六	